

「市民クラウン」に感動、 新“静岡人”育む・大道芸

プレジデント社 dancyu編集部 主任編集委員

里見美香さん

Mika Satomi



経歴

静岡市葵区生まれ。県立静岡高校卒業。早稲田大学教育学部卒業。株式会社暮しの手帖社（創業者はNHK朝ドラ「とと姉ちゃん」のモデル大橋鎮子氏）を経て、1990年、株式会社プレジデント社に入社。日本初の食のエンターテインメントマガジン「dancyu」の創刊に携わる。同誌編集長、別冊編集長、2012年から同誌主任編集委員。
<http://www.president.co.jp/dancyu.html>

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

食ブームの火付け役に

「dancyu」（ダンチュウ、月刊）は日本初の本格的食雑誌として知られ、1990年12月の創刊。ビジネス誌「PRESIDENT」と並ぶプレジデント社の看板だ。「ダンチュウとは、男も厨房に入ろう」という意味合いで男性向け食雑誌としてスタートしました。

創刊以来、①食べる（お店の紹介）、②つくる（レシピの紹介）、③探す（全国各地の

食材探し）を編集の柱とし、貫く。お店紹介は特に人気があり、読者、「食通」の評価が高い。

「dancyu」の記事がきっかけで、讃岐うどんや焼酎、肉など、さまざまな食ブームが生まれた。なかでも、里見さんの提案で実現した1999年の日本酒特集企画は大反響を呼び、全国的な日本酒ブームの火付け役となった。毎年恒例の日本酒特集は「業界の羅針盤」といわれるほどだ。

「日本には、素晴らしい食文化があまり

す。何とか、それを絶やさずに次の世代に食の楽しさ、大切さを伝えていきたいと思つています」と里見さん。「ネットでは得られない食情報、プロとして引き出し、提供できるよ心がけています」とも。

新鮮な子どもの「表現」

静岡市の印象については、「産物や魅力がいっぱいあるのにアピールが下手ですね。言いたいことはたくさんあります」とシビアな指摘をしつつも、新たな発見に期待感も示す。

その一つが、1992年から開催されている大道芸ワールドカップの盛り上げに「役買っている「市民クラウン」。

「昨年、久しぶりに大道芸を見物し、充実にびびりました。しかし何より驚いたのは、街のあちこちでボランティアの市民クラウンの方々がピエロの格好をして、道案内をしたり、楽しげに歩いて、気分を盛り上げてくれているんですね。こういう文化って以前は静岡になかったと思います。おもてなしの心があって素晴らしいですね」。

大道芸では、演技が終わった後、子どもたちが投げ銭をする光景がよく見られる。「感動した心を、子どもたちが形で表す。すごく新鮮で自分の知らなかった新しい「静岡人」が育っているんですね」。大道芸を契機に市民の意識にも変化が芽生えているようだ。

（文・写真…長田義明）